

2018 年度 立命館附属校 教師塾（新任研修）Ⅷ

附属校教育研究・研修センター

第 8 回教師塾を 12 月 4 日（火）に実施した。

講師は立命館宇治中学校・高等学校 マイスター・ティーチャー 渡辺 儀輝先生をお迎えして「授業力の向上③ - 失敗の記録のススメ -」というテーマでお話を頂いた。

参加者は受講対象者 14 名（立命館中高 2 名、立命館小 2 名、立命館宇治中高 4 名、立命館慶祥中高 3 名、立命館守山中高 6 名、）と附属校教頭先生 1 名を合わせた 15 名であった。

研修内容を次の通り報告する。

【研修の記録】

1. 先生方の悩み相談

①生徒の行動、保護者からのクレーム、授業が生徒の質とマッチしていないなど、たくさんの先生はそれぞれ学校での悩みを持っていた。

渡辺先生は、若い先生は授業をこなすことはできるが、保護者や生徒との関係で苦しんでいることが多く、学校での悩みのほとんどは関係であると話された。

②これを解決するキーワードは 2 つ「外の組織をみる」「なぜ、あなたはそう思うのか」を提案頂いた。

(i)「外の組織を見る」とは、別の学校の様子を見るのではなく、外の組織である NPO 法人や町内会などの学校教育関係ではない団体の仕組みをみることで、そこではどのようにして様々な人が関わっているのかなどを知ることによって解決ができると思う。学校の外の人とたくさん関わって情報を入手いく必要がある。

(ii)「なぜ、あなたはそう思うのか」とは、自分の価値観と生徒の価値観は同じであるのか？何が普通・基準であるのかと考えることでそもそも、こちらが普通ではないのかもしれない。現在 1 学年 120 万人、その中で大学生になるのは 60 万人、国公立大学が 10 万人で私立大学に進む人は 50 万人で、センター試験を受ける生徒が 59 万人いる。1 万人は受験をしないで大学生になる(60 分の 1)。我々は 60 分の 59 の視点から見ているが、附属校の生徒とは見ているところが違う。

このような生徒について我々はどのように接していかなければならないかを考える必要があり、このような環境にいることを自覚して日々の記録を取ることが重要である。

2. 良い授業とは

渡辺先生からよい授業とは言う質問に受講者から全員が参加していて暇をしない授業、授業が終わった後に生徒が休み時間になっても感想などが続いている授業、生徒が顔をあげて聞いている授業などと回答があった。さらに、渡辺先生から昔は解りやすい授業が良い授業であったが、今は YouTube には勝てない、アクティブラーニングによる教員不在でも話が進む状況の中、教員の価値観はなんであるかと問いを投げられた。そして、学校で学ぶメリットを生徒に還元できるようにならなければ YouTube には勝てない。我々が子どものころの経験ではこれから先通用しなくなっていくので、これから考えていく必要があると渡辺先生からお話を頂いた。

・渡辺先生が考える良い授業は、授業を終えた後に本当かを調べるために図書館に行く生徒がいる授業である。



(立命館守山中学高等学校 教諭 中川義之)

(編集 附属校教育研究・研修センター 羽田 澄)